

令和7年度 福岡県「体験の風をおこそう」運動推進事業

夜須高原ファミリーキャンプ①報告書

1. 趣 旨 幼児及び小学生とその家族を対象に、様々な体験活動を通して、親子及び家族同士の交流を図り、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
(企画・運営：福岡県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会)
3. 期 間 令和7年7月12日(土)～ 13日(日)
4. 場 所 国立夜須高原青少年自然の家(福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103)
5. 参 加 者 20家族66名
6. 活動の様子



【館内版里地里山ウォークラリー】



【竹箸作り】



【家族交流タイム】



【竹水鉄砲作り】



【流しそうめん体験】



【水遊び】

7. 感 想

① プログラムに関すること

- ・ 普段できない体験をすることが出来た。自然に触れあえて子どもも楽しそうだった。
- ・ 里山のことが知れて面白かった。
- ・ 館内でも楽しめた。勉強になった。
- ・ 里地里山ウォークラリーは、野外での実施が良かった。
- ・ お箸は前に作ったものよりも本格的に仕上がった。家でもぜひ使いたい。
- ・ 家では出来ない様な体験が出来てとても良かった。子供達も張り切って頑張っていた。
- ・ 長い流しそうめん台、本物の竹を見ただけでテンションが上がっていた。
- ・ 自分で作った水鉄砲で遊んで雨の中とてもいい経験になった。

②事業全体に関すること

- ・普段できない自然に触れ合う活動がすばらしい。
- ・プログラムが余裕を持って組まれていて良かった。
- ・我が子が初対面の方とも交流している姿を見て成長を感じることが出来た。
- ・リスクに応じた対応で良かった。
- ・小さい子に合わせてあるので家族みんなで楽しめる。
- ・思っていたよりも他の家族との交流がなかった。

8. 成 果

●プログラムに関すること

本事業において、夜須高原の里地里山と関連したプログラムとして、『館内版里地里山ウォークラリー』や『竹箸作り』などを実施した。これらのプログラムについては、前年度以前の教育事業においても試行を行っていたため、それらの反省を踏まえてプログラムの内容に改良を加えて実施した。『館内版里地里山ウォークラリー』では「館内でも楽しめた」「勉強になった」、『竹箸作り』では「前に作ったものよりも本格的に仕上がった」「是非家で使いたい」という感想を得ることができた。

また、『館内版里地里山ウォークラリー』を研修支援に落とし込むための課題点として、館内で実施することのできる里地里山や森林に関する体験が不足している点や取り扱う内容の範囲が広く体系的に整理されていない点を洗い出すことができた。今後、これらの課題点を解消して、研修支援への落とし込みができるようプログラムの改良を行う。

●法人ボランティアに関すること

本事業では法人ボランティアが『家族交流タイム』の企画および当日の進行を担当したことで、法人ボランティアの活躍の機会を創出することができた。

●事業全体に関すること

また、事業全体の感想として参加者からは「普段できない体験をすることができた」「自然に触れあえて子どもも楽しそうだった」という感想を得ることができた。このことから、本事業では普段できない体験を参加家族に提供することで体験活動等の重要性を広く普及・啓発することに寄与することができたと考える。

9. 課 題

本事業では、暑熱回避のため野外活動の『里地里山ウォークラリー』を中止し、雨天プログラムとして企画していた『館内版里地里山ウォークラリー』を実施した。結果として、参加者からは野外での活動を実施して欲しかったとの声もあった。次年度以降、同時期に事業を実施する際は暑熱環境を回避しながら、十分に自然と触れ合えるプログラムを企画することが必要であると考ええる。

また、本事業では『竹箸作り』や『竹水鉄砲作り』などの家族ごとに活動するクラフト活動を多く実施したため、「思っていたよりも他の家族との交流がなかった」との感想も見受けられた。今後の事業実施の際には、参加している家族同士の交流の場を確保することが出来るプログラムも実施する必要がある。